

地域公共交通おでかけ支援事業

- ・地域公共交通市内1日無料デー
- ・プレミアム付きタクシー券

実施結果をお知らせします！

北九州市では、新型コロナ及び物価高騰の影響を受け、外出を控えるようになった市民や観光客への支援、環境にやさしい公共交通の利用促進として、「地域公共交通市内1日無料デー」及び「プレミアム付きタクシー券の販売」を実施しました。

この度、実施結果を取りまとめましたのでお知らせします。

記

1 実施日（実施期間）

地域公共交通市内1日無料デー：9月3日（日）、10月8日（日）、11月5日（日）
プレミアム付きタクシー券：6月1日（木）～11月30日（木）

2 主な実施結果

※詳細は、別紙「地域公共交通おでかけ支援事業実施結果」のとおり

- 地域公共交通市内1日無料デー
 - ・ 3日間で約58万人と非常に多くの方が利用（各回ともに、前年同時期の約2倍）
 - ・ 無料デー実施によるマイカー削減台数は、3日間で約4.9万台（約6%減）【推計値】
 - ・ 経済波及効果は、3日間で約3.5億円【推計値】
- プレミアム付きタクシー券
 - ・ 30,000冊完売。総利用枚数は約98%と高い利用率

【お問い合わせ】

建築都市局 都市交通政策課
（課長）平野、（係長）岡崎 TEL:093-582-2518

地域公共交通おでかけ支援事業

地域公共交通市内1日無料デー
プレミアム付きタクシー券

実施結果

1 実施概要	1
2 実施結果（まとめ）	2
3 地域公共交通市内1日無料デー	3
○ 実施日（全3回）および利用者数	3
○ アンケート調査結果	4
○ 自動車交通量への寄与	5
○ 経済波及効果	6
4 プレミアム付きタクシー券	7



北九州市

◆事業目的

- 新型コロナウイルス感染症および物価高騰の影響を受け、外出を控えるようになった市民や観光客への支援、環境にやさしい公共交通の利用促進策を行うもの。
- これにより、公共交通の利用者・事業者双方への支援に加え、人が移動し、消費行動を促すことによる北九州市経済全体への波及効果を期待するもの。

【地域公共交通市内1日無料デー】 実施額（市の支出額）： **72,590千円**

- 対象事業者：西鉄バス、市営バス、モノレール、筑豊電鉄、関門汽船
※ JR、高速バス、市営渡船（若戸航路・小倉航路）は対象外
- 対象路線：北九州市内を一部でも運行する路線バスや鉄軌道は全て無料対象

- 実施日（3回）：①令和5年 9月3日（日）
②令和5年10月8日（日）
③令和5年11月5日（日）

	9月3日	10月8日	11月5日
天気	晴	雨のち曇	晴
平均気温	29.0℃	17.8℃	21.8℃

出典：気象庁HP

【プレミアム付きタクシー券】 実施額（市の支出額）： **41,094千円**

- 対象事業者：市内に本社または営業所を置くタクシー事業者（参加事業者：52社、4協同組合）
【乗車または降車が北九州市内であること】
- 販売内容：3,000円分（500円券×6枚）のタクシー券を2,000円で販売
- 発行冊数：30,000冊（180,000枚）
- 販売・利用期間：令和5年6月1日～11月30日

2 実施結果（まとめ）

◆地域公共交通市内1日無料デー

- ・ 3日間で約**58万人**と非常に多くの方が利用（各回ともに、**前年同時期の約2倍**に相当）
- ・ 一部の事業者では、無料デー実施後も昨年度と比較して利用者が増加しており、**無料デー実施が継続的な利用促進に一定程度寄与**
- ・ アンケート調査によると、**約8割が満足**（大変満足または満足）、**約3割が無料デーを契機に外出、約2割がマイカーから公共交通へ転換**
- ・ 無料デー実施による**マイカー削減台数**は、3日間で約**4.9万台（約6%減）**【推計値】
- ・ **経済波及効果**は、3日間で約**3.5億円**【推計値】
- ・ 市有施設の来館者数は、前年同時期と比べて**約1.4倍**増加
- ・ 商業施設（井筒屋、セントシティ）の来館者数は、前年同時期と比べて**約1.2倍**増加

◆プレミアム付きタクシー券

- ・ 総販売冊数を**完売**（販売開始から数日でほぼ完売）
- ・ 利用枚数も総販売枚数に対して**約98%**と、**非常に高い利用率**
- ・ **紙券**での発行のため、デジタルチケットを使い慣れない**高齢者には使い勝手が良かった**
- ・ 一方、**キャッシュレス決済に未対応**のこともあり、**若年層の取り込みができなかった**
- ・ **日常の買い物や外食を目的**とした利用が多く、**街中への周遊に一定程度寄与**
- ・ 令和4年度に運賃改定を実施したが、その反動による乗り控えが少なく、過去の運賃改定では対前年減収傾向である中、令和5年度は増収となる見込み
- ・ 今後は、若年層を含む利用者の利便性を向上させるため、**DXの推進が必要**

◆実施日（全3回）および利用者数

- (1) 9月3日（日） **約19万人**が利用（前年同時期の**約2.1倍**）
- (2) 10月8日（日） **約18万人**が利用（前年同時期の**約1.9倍**）
- (3) 11月5日（日） **約21万人**が利用（前年同時期の**約2.0倍**）

3日間で
約58万人が利用

【交通機関別利用者実績（人）】

	9月3日	10月8日	11月5日	計
西鉄バス	110,731 (2.0)	113,102 (1.9)	138,184 (1.9)	362,017 (1.9)
市営バス	8,809 (1.3)	8,588 (2.1)	10,212 (2.1)	27,609 (1.8)
モノレール	52,163 (2.3)	38,205 (2.1)	39,807 (2.2)	130,175 (2.2)
筑豊電鉄	12,167 (2.9)	10,710 (1.7)	14,235 (2.3)	37,112 (2.2)
関門汽船	8,671 (6.5)	7,491 (3.3)	10,242 (3.9)	26,404 (4.2)
計	192,541 (2.1)	178,096 (1.9)	212,680 (2.0)	583,317 (2.0)

※（ ）内の数字は、対前年比（前年同時期の日曜日）

◆交通事業者による効果検証

- ・各回ともに、利用者が**前年同時期の約2倍**に相当するなど、非常に多くの方にご利用いただいた。
- ・商業施設やイベント開催のある路線の利用が特に多く、公共交通の利用促進には**目的地との連携が非常に効果的**であることを再確認した。
- ・普段より子ども連れのファミリー層が目立ち、幼少期から公共交通に親しんでもらう良い契機となった。
- ・一部の事業者では、**無料デー実施後も利用者数が昨年度と比較して増加していた**。
 コロナ禍からの旅客需要の回復や、各種イベント開催などの要因はあるものの、**無料デー実施が継続的な利用促進に一定程度寄与した**と考えられる。
- ・一部の路線では、**想定以上に利用者が集中する時間帯**があり、臨時便等で対応したものの、乗車できないことがあるなど、混雑した。

◆アンケート調査結果（N=307人）

※Webアンケート（自由回答）

○ 満足度

約8割の方が**満足**（大変満足および満足）

- ✓ 肯定的な意見（主なもの）
 - ・日ごろ乗らない交通機関を使ってみる機会になった。
 - ・市を盛り上げ、元気づける取組みだと感じた。
 - ・観光や遊びにお金を多く回せた。
 - ・自家用車が少なかった気がする。本当にそうなら環境負荷低減につながる。
- ✓ 否定的な意見（主なもの）
 - ・交通機関によっては、一部の時間帯で乗車できないことがあるなど、非常に混雑していた。
 - ・無料はありがたいが、日曜日にも仕事があるので、人が増えてダイヤが乱れるのは困る。

○ 公共交通が無料ではなかった場合の行動パターン

- ・変わらない（公共交通を利用） 29%
- ・外出しない 27%
- ・自家用車で移動 24% など

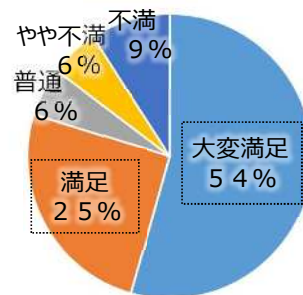
⇒ **約3割**の方が**無料デーを契機に外出**

⇒ **約2割**の方が**マイカーから公共交通へ転換**

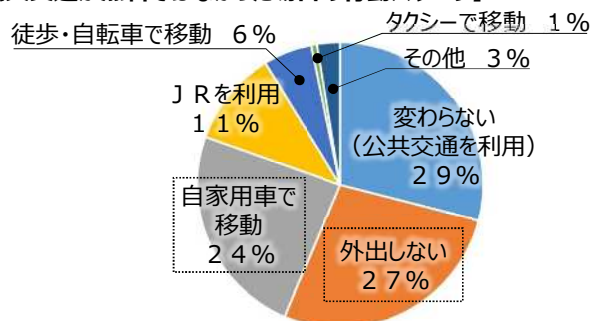
○ 外出先での消費額

1人平均消費額 約3,800円

【満足度】



【公共交通が無料ではなかった場合の行動パターン】



【外出先での消費額】

外出先での消費額	回答者数	備考
500円未満	40	250円として計算
500～1,000円未満	32	750円として計算
1,000～3,000円未満	99	2,000円として計算
3,000～5,000円未満	51	4,000円として計算
5,000～10,000円未満	51	7,500円として計算
10,000円以上	34	10,000円として計算
計	307	1人平均消費額 約3,800円

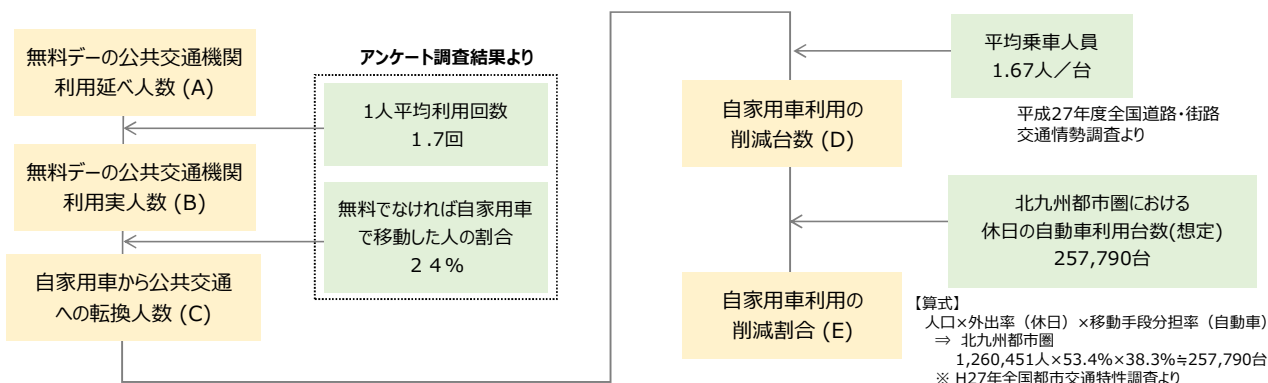
◆自動車交通量への寄与 ※アンケート結果に基づく推計値

○マイカー削減台数 1日当り**1.5万台~1.8万台**、3日間計で**約4.9万台**
削減割合 **約6%** と推測

※もともと自家用車で外出する予定であった方が、公共交通を利用したことで削減できたマイカー利用台数を試算

試算結果		1回目	2回目	3回目	計	算定式
無料デーの公共交通機関利用者数	延べ人数(人)	192,541	178,096	212,680	583,317	(A) 無料デー当日の公共交通機関別利用者実績の合計
	実人数(人)	113,259	104,762	125,106	343,127	(B) = (A) / (1人平均利用回数: 1.7回)
自家用車から公共交通への転換(人)		27,182	25,143	30,025	82,350	(C) = (B) * (無料でなければ自家用車で移動した人の割合: 24%)
自家用車利用の削減台数(台)		16,277	15,056	17,979	49,312	(D) = (C) / (平均乗車人員: 1.67人/台)
〃の削減割合		6%	6%	7%	6%	(E) = (D) / (北九州市圏における休日の自動車利用台数(想定): 257,790台)

試算フロー



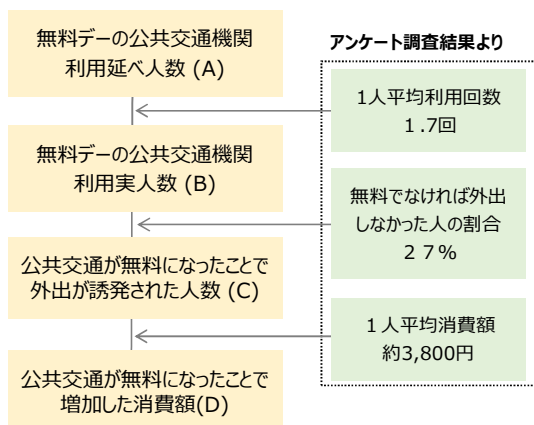
◆経済波及効果 ※アンケート結果に基づく推計値

○1日当り**1.1億円~1.3億円**、3日間計で**約3.5億円**と推測

※公共交通が無料になったことで増加した消費額を試算

試算結果		1回目	2回目	3回目	計	算定式
無料デーの公共交通機関利用者数	延べ人数(人)	192,541	178,096	212,680	583,317	(A) 無料デー当日の公共交通機関別利用者実績の合計
	実人数(人)	113,259	104,762	125,106	343,127	(B) = (A) / (1人平均利用回数: 1.7)
公共交通が無料になったことで外出が誘発された人数(人)		30,580	28,286	33,779	92,645	(C) = (B) * (無料でなければ外出しなかった人の割合: 27%)
公共交通が無料になったことで増加した消費額(千円)		116,204	107,487	128,360	352,051	(D) = (C) * (1人平均消費額: 3,800円)

試算フロー



◆市有施設への入館者数(前年同時期比)

市有施設の来館者数は、前年同時期と比べて**約1.4倍**増加

- ・第1回目 **約1.60倍**
- ・第2回目 **約1.46倍**
- ・第3回目 **約1.02倍**

【対象施設】
小倉城、小倉城庭園、漫画ミュージアム、到津の森公園、
門司港レトロ展望室、九州鉄道記念館、関門海峡ミュージアム、
こどもの館、元気のもり など

◆商業施設へのヒアリング結果

各施設、前年同時期と比べて**約1.2倍**の来館者数となり、
売上もアップ

- ・井筒屋 : 来館者数 約1.1~1.4倍
売上高 約1.0~1.3倍
- ・セントシティ : 来館者数 約1.2倍程度
売上高 約1.1~1.2倍

◆販売実績

○ 総販売冊数を完売

- ✓ 販売開始から数日でほぼ**完売**
- ✓ 利用枚数も、総販売枚数に対して、**約98%**(177千枚/180千枚)
と**非常に高い利用率**

◆利用者属性

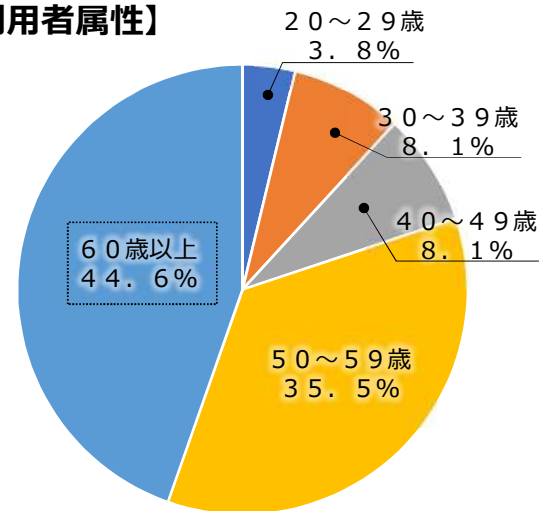
○ 60歳以上が半数を占める

- ✓ 紙券での発行のため、デジタルチケットを使い慣れない**高齢者には**現金との併用が可能なこともあり、**使い勝手が良かった**
- ✓ 一方、**キャッシュレス決済に未対応**のこともあり、**若年層の取り込みができなかった**

アンケート調査結果 (N = 186人)

※Webアンケート(自由回答)

【利用者属性】



4 プレミアム付きタクシー券

◆利用目的

○ 日常の買物や外食が半数以上を占める

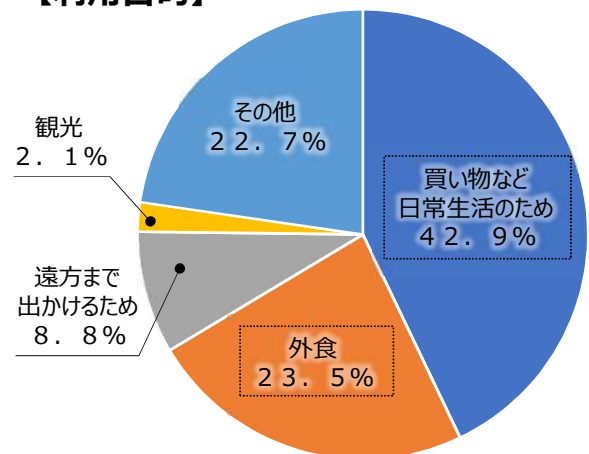
- ✓ **街中への周遊に一定程度寄与**

◆輸送実績

○ 前年同期間比の営業収入が5%アップ

- ✓ 令和4年度に運賃改定(約13%)を実施したが、その反動による乗り控えが少なく、過去の運賃改定では対前年減収傾向である中、令和5年度は増収となる見込み

【利用目的】



◆明らかになったこと

○ DXの必要性

- ✓ 若年層を含む利用者の利便性を向上させるためには、**DXの推進**が必要
 - ・ 配車アプリの導入
 - ・ キャッシュレス決済システムの導入
 - ・ MaaSの推進 など

※MaaS (Mobility as a Service) : 様々な移動手段を最適に組み合わせ、検索・予約・決済を一括で提供するサービス